

第11回 ~百合ヶ丘・新百合ヶ丘~

次回子ども食堂は…

子ども食堂のご報告

5月14日(月)17:00~19:00

子ども食堂(百合ヶ丘・新百合ヶ丘駅=川崎市)を3ヶ所で開催、約100名の参加があり、延べ参加人数も671名となりました。

3月下旬~4月上旬にかけ「子ども麻生川桜まつりで屋台を出し、その利益を子ども食堂の運営に！」企画後、初めての開催。屋台でお見えになられた方も多く来られており、小さな輪の広がりを感じました。

今回の百合ヶ丘ルミナス保育園会場は、大学生が春休み明けで少し手薄な状態でした。毎回参加している中学1年の数名がお手伝いをしてくれました。大変助かりました！次回も期待しています。

地元学生スタッフも多くかかわっていますが、地元企業やお店が力を合わせちょっととした共同CSR活動になっているようにも見えてきました。どの法人も人手不足で騒がれている業種です。多くの社(職)員を参加させることは無理でも、場所や食材などの提供・中間支援ならお手伝いができます。長く継続させたい思いから無理ない範囲で支援の輪を広げています。

現在、5月以降の開催に向けスタッフなどの募集をする予定です。①前々日・前日の食材皮むきのお手伝い②当日の運営のお手伝い(柿生など増設も含)③チラシの配布のお手伝い④寄付などを募集する予定です。説明会の開催も計画しています。これからも百合ヶ丘・新百合ヶ丘子ども食堂をよろしくお願いします。

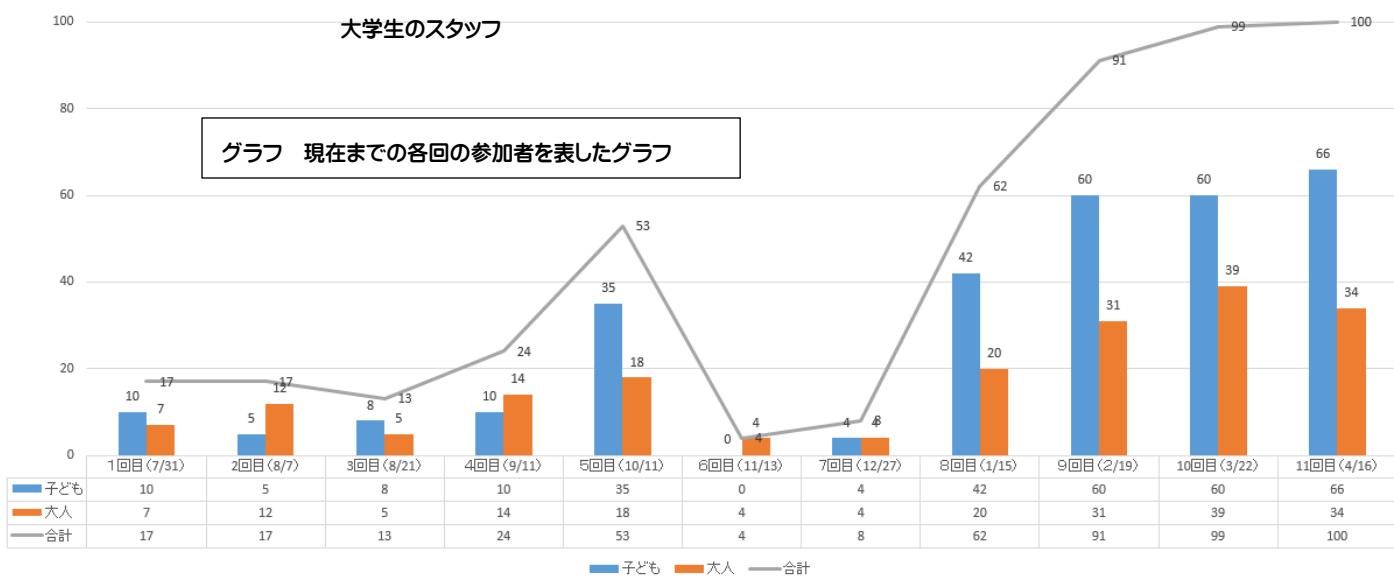


お手伝いしてくれた中学生

エプロンなどをお借りした
大学生のスタッフ

就活中の大学生スタッフ・新百合ヶ丘会場

小学生などもわくわく(=学童)から

NPO 法人アイゼン <http://npo-aizen.jp>

学生代表：伊藤 里紗 risa@npo-aizen.jp

担当理事：俵 隆典 mailpost@npo-aizen.jp 携帯 080-9184-8722

〒215-0023 川崎市麻生区片平 2-30-1 FAX044-330-1539



WEB QR コード

趣旨 NPO法人アイゼンは、「百合ヶ丘子ども食堂」を開催。地元法人、学生とアイディアを出しながら運営。親は仕事に忙しく、わくわくプラザ（＝学童）や習い事から帰ってくると一人ご飯を食べていることが多いです（麻生多摩区はしっかり食事など準備しているご家庭が多いです）。子ども食堂という少し違った食べる環境だと「少しいいかも？！」と期待しています。将来を担う子どもに焦点を当てるのは大切です（働く親には焦点が当たりにくく）。頑張っているパパ・ママが、たまには地域に甘える日があつてもいいのではなかろうか！実際に「親子食堂」「ママ友親子食堂」のような雰囲気です。「人の多い時間、お店で食事をすると周囲が気になるので、大変ありがたい」とのニーズも！「子どもだけでなくシルバー世代もご一緒に」などご要望はたくさん届いています。まだ未完成な”百合ヶ丘・新百合ヶ丘子ども食堂”ですがよろしくお願ひします。

会場	百合ヶ丘こども食堂	漁魚の海 ととのうみ	川崎市麻生区百合丘1-16-36 2階
	百合ヶ丘こども食堂第2	百合丘ルミナス保育園	川崎市麻生区百合丘 1-19-2 星ビル 3F
	新百合ヶ丘こども食堂	麻生プレッピスクール	川崎市麻生区万福寺 1-10-10

なぜ麻生区の学生がこの活動やサークルをおこなうか？ ①**学生サークルとしてのチャレンジ** 皆、大学のサークルに入っているが大学ごとにわかっているので住んでいる地域が広域になり集まりが制限される。サークルのために都内など遠方に出ることが多く長期休みはあまり活動がない。終電やバイトに左右もされるのでなかなか集まることが難しい。これはどの学生サークルでも同じことである。もっと手軽に参加できるサークルはないかと考えた。集まりやすいサークル？同じ地域から参加者を集めると近いので集まりやすい？こんなサークルがないか探したが地域にはなかった。無いなら作ってみよう！と伊藤ら数名が集まり挑戦を始めた。学生が気軽に参加しやすく集まりやすいサークル作りである。活動を始めるとメリットがたくさん出てきた。集まりやすいだけでなく、地元である麻生・多摩区のことをよく知っているので共通した話題もあり、活動するニーズも見つけやすかった。②**学生のロールモデルがない** 保育園の待機児童の増加の背景は、よりお母さんが働きやすくなったことが大きい。これは時代が変わり女性の権利が少しずつ認められたことで、働くことが当たり前になりつつある。また夫の年収減、子どもの高学歴化による学費、終身雇用の崩壊など共働き世帯が増加している多くの要因になっている。今まで一番身近にいる親がロールモデルになることが多かつたが、働くお母さんや家事を手伝うお父さんなどのロールモデルは、今の大学生の世代にはまだ身近に少ない。地域子育て支援を通して、多くの学生が卒業後10年以内に経験をすると思われることに触れることにできる活動を意識した。またこれらを見据えながら職業観・キャリアデザインに生かし、就活に取り組むことも目的にしている。③**学生のほとんどが幼稚園出身者** ②の続きにもなるが、ほとんどの学生が幼稚園出身者で保育園のイメージが湧かない。地域子育て支援活動は「保育園でのボランティア」や「大学2年在学後の保育士取得」などを目指すなど、安心して預けることのできる「保育園を知る」ことも大切な役割としている。④**都心に通うお母さんが安・近・短に** 麻生区は都心部に通勤する人が多くいわゆる神奈川都民である。しかし子どもが大きくなるにつれ、お母さんは麻生・多摩区周辺で働く希望者が多い。帰りが早く安心、家から近く、通勤が短いものを求める。子どもの「保育園入園・第2子の入園・第1子(又は第2子以降)の小学校入学など」の節目で子どもとのかかわり方を考えると「長く子どもと接したい」との気持ちが大きくなり、転職を考えるお母さんたちも多い。この現状を知ることは学生にとってこれから自らが歩む姿と重なる。(NPO法人アイゼンでは、お母さんの希望と地元にある企業のマッチングを将来的には検討している) **その先には…** 正直なところ学生の打算もある。身近に迫る就活で学生時代の経験として話せるようにしたいというものある。しかしその動機だけはこのような活動は続けられない。実際に途中で抜けた学生もいるのも事実である。しっかりと取り組んでいる学生は対価を払ってもできない活動・経験・体験をしていることを十分理解している。最終的には、働き出したり結婚することで他地域に移ることもあるが、麻生・多摩区がより住みやすく・より過ごしやすい地域になれば、これからも住み続けたり、一度離れて再び住むことを選ぶと思う。学生まで過ごした街で子育てができる当然の姿を求めるための活動である。